

Contents

- 1) 理事長から
- 2) AED推進フォーラム2018
- 3) AED功労賞
- 4) ご寄付のお願い

AED推進フォーラム2018を振り返って

日本AED財団理事長 三田村秀雄



2018年11月、第3回目となるAED推進フォーラムが都内で開催されました。前年に引き続き今回も高円宮妃殿下のご臨席の下、活発な議論が取り交わされました。

メインテーマとして、4月にAED財団と日本循環器学会とが合同で公表した提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」を取り上げました。当たり前のことですが、AEDという機器の威力を発揮できるのは、救命のための好条件がそろっている場面です。スポーツ現場がまさにそのような場面であり、そこには目撃者がいて、救助にあたる人もいます。多くのスポーツは限られた場所で限られた時間に行われることから、AEDを近くに用意しておくことが可能です。さらにスポーツ中に心停止を起こす人は、そもそも元気な人が多く、直ちに心室細動を治せば再び元気な姿に戻り、今まで通りの生活を送れる可能性が高いのも有利な点です。提言では3分以内の電気ショックを推奨しましたが、心停止を想定内の出来事として周到な準備をしておけば、突然死ゼロも決して夢ではありません。

会場にはマラソンの有森裕子AED大使や、Jリーグチェアマンの村井満AED財団顧問、あるいは陸連の横川浩会長らスポーツ関係者にもご参加いただき、有益なご助言をいただくと共に、大いにフォーラムを盛り上げていただきました。中でも嬉しかったのは妃殿下が手をあげて発言されたことです。「スポーツ大会におけるエマージェンシー・アクション・プランを作っておくことは大事だが、そればかりを強調すると一般の人は取り残されてしまう、まわりに専門家がいると思った途端に普通の素人は引いてしまう」との貴重なコメントで、我々専門家が忘れがちな問題点を見事に指摘していただきました。頭が下がる思いでしたが、妃殿下の真剣で優しいお気持ちと激励に深く感銘を受けました。

第二部の功労賞表彰式で、小学4年の石井斗和君がとっさの場面でAEDを取りに走って戻ってきたことが紹介されましたが、その若さで救命に手を貸そうとした心意気を称え、その流れを広め応援していくこともAED財団の大事な使命であると改めて認識した次第です。



AED推進フォーラム2018

「減らせ突然死」AED推進フォーラムが2018年11月15日、高円宮妃殿下のご臨席の下、第一部183名、第二部 97名の参加者を得て都内で開催された。

冒頭、妃殿下から家族を突然失うことの衝撃、他の人のためにAEDという命綱を投げることの重要性、そして今後迎える国際的なスポーツ大会開催はAED普及のチャンスであり、これをきっかけに財団として日本だけでなく世界中から突然死を減らすことを目指すように、との心に響くお言葉をいただいた。

シンポジウムは「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」をテーマに、三田村理事長による基調講演、田中秀治理事による「東京マラソン 救命率 11/11の秘策」、田中 裕顧問による「日本サッカー協会が進めるAEDを活用した救急体制」、公益財団法人 日本高等学校野球連盟 理事 田名部 和裕様による「高校野球の心臓突然死対策」、内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官 山本 要様による「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた政府の取組について」お話しいただいた。

後半の総合討論では石見専務理事も加わり、前半の講演内容への質疑や、妃殿下をはじめ会場からの発言もあり、熱い議論が繰り広げられた。

第二部のAED功労賞授賞式では計12件の応募の中から受賞された3組の皆様が紹介され（別掲）、その独創的な取り組みや、AEDを使って救助にあたった方の話に皆が心を打たれた。



高円宮妃殿下



会場風景





シンポジウム風景と啓発ポスター



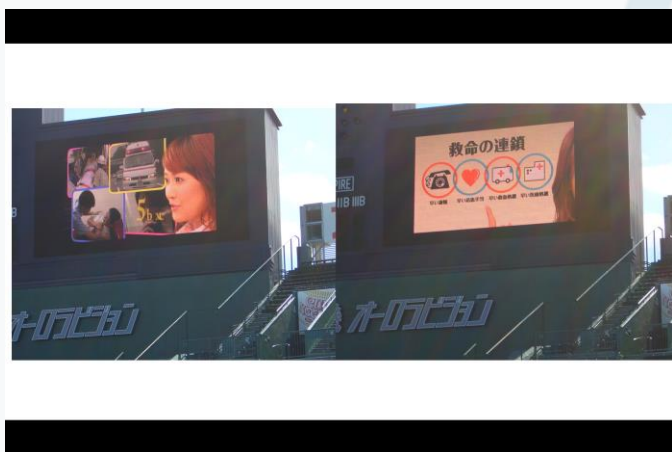
内閣府 山本要様のプレゼンテーション



有森裕子AED大使



ディスカッション風景 (右より内閣府 山本様・高野連 田名部様・田中顧問・田中理事)



甲子園球場イベント
日本高等学校野球連盟 田名部理事 スライドより



日本AED財団 田中顧問 スライドより



AED功労賞2018

日本AED財団では2017年度よりAED功労賞を創設し、本年度も全国から12件の応募があり、厳正な選考の結果、最優秀賞1件、優秀賞1件、理事長特別賞1件を選出しました。

最優秀賞

災害に強いまち・ひとをつくる会

与儀 真也 様

胸骨圧迫やAEDの使い方を普及させるための教材開発

平成28年から応急手当（心臓マッサージやAEDの使い方）を普及させるための教材開発に取り組み、【**応急手当絵本**】を作成。誰もが応急手当を学ぶことの出来る教材として評価された。地元の沖縄県宜野湾市からも評価され、補助金の対象となるなど、官民を巻き込んでの大きな活動となっている。

優秀賞

CUE

齊藤桃乃 様、藤森叶子 様、小川秀美 様、宮崎理花子 様、岡崎大志 様、中村大雅 様、烏海健一 様

心肺蘇生法を学べるカードゲームの開発

子ども（6歳以上）でも学びやすいカードゲーム型の教材である【ファーストエイダーズカードゲーム】を開発。楽しく学びながら実践的な知識が身につき、繰り返し学べる。遊びを通して何度も心肺蘇生について学ぶことにつながり、継続できる教材として評価された。

理事長特別賞

石井和子様 斗和君（小学4年生）

親子で救助活動

飲食店での食事中に、たまたま居合わせた男性客が倒れその男性を救命した事例。倒れた男性を目撃したお母様は、会社で救命講習を受講していたこともあり、すぐにAEDが必要と考え行動を開始。近所の銭湯にAEDがあるのではないかと予想し、一緒に食事をしていた小学4年の息子とその同級生に銭湯にAEDを取りに行くよう指示。届いたAEDを使用して電気ショックを行い男性の救命に繋がった。母親の迅速な行動はもちろん、小学生も救命活動に関わった事例として評価した。



優秀賞

CUE 齊藤桃乃 様



理事長特別賞

石井和子様、斗和君

最優秀賞

災害に強いまち・ひとをつくる会
与儀 真也 様



ご臨席の高円宮妃殿下と受賞者



リーグチェアマン 村井満 様からご祝辞



石見専務理事による閉会のあいさつ



ご寄付のお願い

いつ、どこで、誰に起こるかわからない突然死を救うには、全国レベルでの取り組みが求められます。ところが残念なことに救急車が現場に到着するには平均8.5分かかると言われます。心停止の場合、それでは九死に一生を得ることも困難です。手遅れを補う唯一の手段が現場の一般市民による応急手当なのです。たまたま居合わせた素人の市民が勇気を振り絞って手を差し出せるかどうか、そしてすぐにAEDを使えるかどうかが生死を分けます。

そのような市民への協力をいったい誰が促し、その実現のための環境を誰が整えていけばいいのでしょうか。待っているだけでは何も変わりません。それを積極的に変えていくという公的な使命を担うのが日本AED財団であると考えています。

世の中の仕組みを変えていくためには、各方面への働きかけだけでなく、多くの方々に命の大切さを説き、救命が可能なことを伝え、それを実践できるように教育、講習、啓発などを推進していかなければなりません。

日本AED財団は平成28年7月に発足したばかりで、その目的をかなえるだけの資金がまだ足りません。この活動は皆様のご理解とご支援なくして遂行できません。是非とも私どもの活動にご賛同いただき、ご支援賜りますようお願いいたします。貴重な命を救うために。ご寄付は随時お受けしており、金額はいくらでも歓迎します。なお、継続してご支援いただける場合には、支援会員の制度もございますので、お問い合わせください。

一般財団法人 日本AED財団 御中

(申込日) 平成____年____月____日

貴財団の趣旨に賛同し、下記の内容により寄付いたします。

ご芳名

ご住所 _____

〒

(電話)

(FAX)

(Email)

寄付金額

金 _____ 円

振込人名(カタカナ)

振込予定日 平成____年____月____日頃

【お振込先】金融機関名：みずほ銀行 東京都庁出張所(777)

口座番号：普通預金1065036 ザイ)ニホンAEDザイダン

振込先名義：一般財団法人 日本AED財団

※本用紙をご提出いただく際は以下のFAX番号までのご送付をお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119

E-mail info@aed-zaidan.jp

HP http://aed-zaidan.jp/



日本AED財団